



ライフドアすわ

地域ケア会議通信

発行：諏訪市地域医療・介護連携推進センター ライフドアすわ

〒392-0027 諏訪市湖岸通り5-12-5 Tel:0266-78-0477

e-mail : info@lifedoor-suwa.jp



令和5年度第1回「諏訪市地域包括ケア推進会議」を開催しました

去る5月18日（木）、諏訪市総合福祉センターにおいて「第1回諏訪市地域包括ケア推進会議」が開催されました。

今年1月に試行的に行った会議を踏まえ、本格実施となる今回は、本人の「したい」「できるようになりたい」と思う具体的な生活を実現するために、介護保険サービスなどのフォーマルサービスだけでなく、インフォーマルサービスを幅広く組み合わせる介護予防ケアマネジメントを主眼に置いて、積極的に意見が交わされました。

また、会議のもう一つのねらいとして、話し合いを通じ、多（他）職種の連携の強化と情報共有、意識合わせにより、「2025年問題」に向けた諏訪市の地域包括ケアシステムの地固めを目指しています。

5月8日から新型コロナウイルス感染症の位置付けが「5類」に移行しましたが、感染対策を行う中で、薬剤師、看護師をはじめ介護事業所関係の方など大勢の皆さんにご参加いただきました。

市では、「諏訪市地域包括ケア推進会議」を本年度4回開催し、多くの皆さんのご参加により新たな政策や仕組みづくりを進め「地域包括ケアシステム」の深化・推進につなげていきたいとしており、ライフドアすわも開催に協力しています。

【第1回諏訪市地域包括ケア推進会議】

*日時：5月18日（木）13:30～15:00

*場所：諏訪市総合福祉センター交流ひろば

*参加者：42名

介護支援専門員 40.5%、薬剤師 11.9%、
看護師 9.5% ほか 38.1%

会議の流れ

オープニング	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 開会～あいさつ～自己紹介 ➢ プレゼン（会議の目的、ルールについて） 	
ケース検討 ×2 ケース	■ケース概要説明	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の状況に至った要因（個人因子・環境因子） ・生活機能評価の説明→改善可能なポイントなど
	■意見交換	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者は、自らの専門分野を中心に事例をチェックし発言
	■まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・支援方針まとめ
全体のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 振り返り～あいさつ 	

ケース検討

事例1

（ケースの概要）

本人の状況

- ・67歳女性。要支援2（ADL・IADL一部介助）身体障害者手帳（変形性膝関節症）
- ・[身長] 152 cm [体重] 57 kg [BMI] 24.6
- ・関節リウマチにより仕事や生活に制限を受け、あきらめの気持ちを抱き来所・相談

家族の状況	一戸建てに一人暮らし。娘2人はそれぞれ東京、松本に在住。関係は良好
通院・服薬	整形外科：変形性膝関節症（ヒアルロン酸注射2回/月）、関節リウマチ 眼科：白内障（手術済み）
服薬情報	整形外科：ロキソニン、プレドニン、ネキシウム、エディロール
生活課題	<ul style="list-style-type: none"> ・関節リウマチにより全身に関節の変形、こわばりなどあり歩行や日常生活に支障 ・足裏変形のため、室内でも靴を履き移動するもつまづき、転倒頻発 ・自宅周辺は坂道のため自立歩行は困難。両手指の変形により杖など歩行補助具は困難 ・買い物は生協と娘の送迎。ゴミ出しは近所の方をお願いしていたが、老齢のため中断
望む暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ・自分でできることは自分でやりたい。特にゴミ出しや買い物は自分でしたい
利用サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉用具貸与（電動車いす・付属品のかご） ・機能訓練型デイサービス

（事例の選定理由）

- ① リウマチを抱えながらも自分の役割を継続したいという自立心が強く、そのために今以上にどのようなアプローチができるか考えたい。
- ② 最近特に、IADLが低下した方から「ゴミ出しに困る」との介護サービス利用の相談が増えており、自立支援へのアプローチについて意見をいただきたい。

（主な意見）

- ・リウマチの痛みと変形の進行について、専門職として経過を確認していく必要がある。リウマチの方に便利に使える福祉用具がたくさんあるので、うまく使っていかれるといい。
- ・（要介護の方であれば）一定期間老健に入所して専門職が観察～見立てを行い、帰宅後の在宅生活をフォローする専門職につなぐことも可能。また、集中的にリハビリを行うこともできる。

- ・介護保険で利用できる福祉用具は「要介護2」以上が対象。軽度の方にこそ使ってほしい福祉用具があると感じる一方、使用によって筋力低下につながる恐れもあり悩ましい。リハ職の方に気軽に相談できるような関係性がほしい。
- ・市の新規事業として、要支援1・2、事業対象者の方が介護サービスを利用する際に、リハビリ専門職の方に一緒に家庭訪問していただき、アドバイスを行う事業をスタートする。
- ・本人の意欲や体力低下を防ぐため、人とのかかわりをどのように導いていくかが大切。
- ・互助の観点からごみ捨てなどはご近所の協力を得たいところ。しかし本人が気後れしてしまうとしたら、協力者にボランティア・ポイントを付与するなどのアイデアが必要。他市町村では中学生の福祉活動の一環として登校途中にゴミ出しボランティアをするという例もある。

事例2

(ケースの概要)

本人の状況 ・71歳男性。ADL・IADLともに自立。[身長] 164 cm [体重] 68 kg [BMI] 25.0
 ・1年前に脚立から落下し、腰椎圧迫骨折による手術を機に電気関係の仕事辞めた

家族の状況	持ち家（一軒家）に妻と長男、次女と4人暮らし。長女は独立して近所に居住
通院・服薬	整形外科：R3年10月に第二腰椎圧迫骨折～手術、R元年から脊柱管狭窄症…経過観察
服薬情報	整形外科：カロナール、プレガバリン、リリカOD錠
生活課題	・足先の痺れはあるが痛みはない ・することがないと昼過ぎから飲酒。焼酎を飲んでしたが、訪問マッサージ代を捻出するため半分まで減らした ※デイなど予定がある日は飲酒はしない
望む暮らし	・妻が仕事に行っている間に「動けるうちはやれることはやりたい」と、モップ掛け、洗濯、ゴミ集めなどの家事を行っている。酒のつまみなどは自分で調理する ・自費で訪問マッサージに来てもらっているが、もう1日デイに通う日を増やしたい
利用サービス	・機能訓練型デイサービス ・2モーター電動ベッド（自費） ・訪問マッサージ（自費）

(事例の選定理由)

- 軽度者の方が、居場所を求めて介護保険サービスの利用を希望する相談が増えている。

(主な意見)

- ・要介護認定を受けた方の「すわっこランドに通えるようになりたい」という希望を叶えるため、機能型のデイサービスを利用しながら、まずは近所の共同浴場に行かれるよう部屋の周りを歩くというプランを立て、徐々に目標を上げて努力された結果、すわっこランドにも行かれるようになり、食事や入浴、仲間づくりを楽しむことができるようになった。
- ・国の基準を満たした「健康サポート薬局」は、一般薬や健康、介護食や栄養に関することなど気軽に相談できる。「通いの場」を提供している薬局もあるので、気軽に立ち寄ってほしい。
- ・包括では介護予防教室を行っているが、市の生涯学習課などを合わせるとほぼ毎日何らかの教室が行われている。QOLの高い暮らしのためにも活用してほしい。
- ・もう一度介護保険を卒業して、再チャレンジや社会とのつながりを得るために、若い頃の仕事や技能を活かした仕事のマッチングを行う場があるといいと思う。

アンケートから

有効回答：30名

これからの仕事にヒントが得られたか

- ・本人の望む暮らしに目を向け、「介護保険からの卒業」について考えることができた。
- ・いろいろな方向からその方の主訴を探ることが大切と感じた。
- ・すべて介護保険に頼るのではなく、地域のサービス、コミュニティを利用していくことも大事。
- ・福祉用具について、専門職との連携が重要。
- ・地域資源について情報が得られ、参考になった。
- ・社会とつながるように支援することが重要と感じた。

高齢者支援に関する困りごと

- ・患者さんから相談を受けた際、まずどこに相談したらいいのかわからない。
- ・認知症の方で「自分はできている」という方への支援。
- ・妄想が出ている方の関わり方。
- ・施設内での活動に留まり、入居者の活動の場が少ない。
- ・介護拒否の利用者さん。

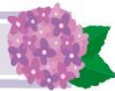
- ・山間地で介護サービスを断られてしまうケース。
- ・収入はそこそこあるが借金が多い方。
- ・ご家族と同居されているが、どの程度関わって生活しているのか踏み込めない。
- ・何らかの病気や障がいの方で、就労意欲のある方のマッチング。
- ・訪問入浴事業所が不足。

感想・意見

- ・多職種交流の機会としてとてもよい。なるべく気軽に参加できるように続けてほしい。
- ・普段あまり関わることの少ない職種の方の意見が聞けて参考になった。
- ・地域や利用者さんが困っていることにしっかり目を向けて、安全に生活していけるようにサポートしたいと思う。また、専門職の方を頼っていきたいと感じた。
- ・専門職で地域の課題を話し合うことも大切だが、市民の意見を聴く機会があるといい。
- ・話し合いの意見がどのように進んでいき、どのように具体化できるのかが気になる。

諏訪市地域包括ケア推進会議にご参加ください

日時・場所



8月24日(木) 11月16日(木) 2月15日(木)
いずれも13:30から
諏訪市総合福祉センター
交流ひろば

申込方法



QRコードまたはメールで

※メールでお申し込みの場合は、氏名、所属名、電話番号、職種、参加証希望の有無を入力してください。



申込QRコード



地域包括支援センター Tel: 0266 (52) 4141 (内線 296)

ライフドアすわ Tel: 0266 (78) 0477 E-mail: info@lifedoor-suwa.jp